



みんなで手を携え、支え合い、ぬくもりのある街にしていきたい。そんな思いを胸に、地域でグループで、生き生きと活動続ける人たちがいます。

## 「イサム・ノグチ最大の作品」の可能性を広げる 『モエレ・ファンクラブ』

「公園全体が一つの彫刻」——『モエレ』に足を運んだ多くの方が、こうした印象を抱くのではないだろうか。

世界的な彫刻家である日系アメリカ人、故イサム・ノグチがデザインしたモエレ沼公園。その活用策を幅広く探っているのが、市民団体「モエレ・ファンクラブ」です。「この公園は、世界に誇れる札幌の新たな文化資産です。子供と同じように、大切にはぐくんでいかねば」と会長である北海道大学大学院教授の小林英嗣さんは語ります。

昨年五月、小林さんをはじめ、建築家や美術館の学芸員ら約二十人で同会を結成。現在、会員は約三百人に上りま

す。七月には公園の中心施設「ガラスのピラミッド」のオープンに合わせ、「イサム・ノグチ展」を企画しました。

初めて手掛けたイベントながら、四十一日間で約一万二千人の動員を記録。施設を管理する市と連携しながら、市民が主体的に運営に携わる。今後のまちづくりのモデルケースとなるはずと小林さんは力を込めます。

「私が創るものは、使われてこそ意味がある」というのがノグチ氏の信条でした。それを余すところなく体現しているのが、大通公園西八丁目に設置されている「ブラック・スライド・マントラ」です。この滑り台でもある彫刻には、



ガラスのピラミッド



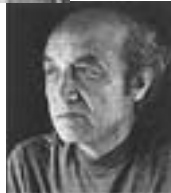
公園全景



同会主催の親子向けイベントのひとこま。晴天に恵まれ大盛況でした  
ホームページ <http://moerefan.cool.ne.jp>



ブラック・スライド・マントラ



イサム・ノグチ

「子供たちのお尻によって、この作品は完成する」と語ったという逸話があるほどです。同会では、昨年の夏、約百八十九名の広大なモエレ沼公園をも子供たちに「使いこなしてもらおう」と、親子で楽しめるイベントを開催しました。運営に携わった北海道教育大学大学院の船越りえさんは、「地形を活用したソリ滑りは大盛況。この公園には、子供たちの歓声がよく似合います」と振り返ります。

今年、高さ五十歳の「モエレ山」の整備も完了し、いよいよノグチ氏最大にして最後の作品が全面完成します。「夏にはファンクラブの協力の下、再びイベントを開く予定です。ぜひ一度、モエレ沼へ！」と石村寛人園長はPRします。ごみの埋め立て地だった荒野を、世界でも類を見ない芸術空間へと再生させたイサム・ノグチ。その創作に賭ける思いに深く共感する会員の皆さんは、一人でも多くの方が公園を訪れ、園内に息づくノグチ氏の鼓動に触れてくれることを願っています。

## 広告欄